

令和7(2025)年度  
東京大学大学院学際情報学府  
学際情報学専攻  
修士課程入学試験案内  
(冬季募集)

**先端表現情報学コース**

注意：本案内以外に、本学府学生募集要項についても必ず目を通すこと。

# 出願上の諸注意

## 1. 入学願書作成に関する注意

- (1) 入学願書は、コースにより記入項目が異なるので、十分注意して選択し、1 コースのみ提出すること。万が一、提出書類でコースの選択が統一されていない場合、入学願書で選択したコースに出願したものとして取り扱う。
- (2) 「外国語（英語）受験方法」欄は、該当する項目を選択すること（「外国語（英語）試験について」参照）。
- (3) 「一般選抜／特別選考枠」欄は、該当する項目を選択すること。
- (4) 「出身大学」欄に正確な学部・学科名を必ず記入すること。また、東京大学を令和7(2025)年3月に卒業見込みの者は、現在の学生証番号を記入すること。
- (5) 大学院を修了している場合も、「出身大学」欄には学部に関する履歴を必ず記入すること。  
また、複数の大学を卒業（見込）又は大学院を修了（見込）の場合は、履歴に記入すること。
- (6) 「現在の身分」欄は、「出身大学」欄の大学に在学中以外の所属がある場合のみ、所属機関、部署等の名称及び身分を具体的に記入すること。研究生等の場合も同様。
- (7) ファクス番号(fax)及び電子メールアドレス(e-mail)の欄は、緊急連絡手段として記入可能なものがあれば、記入すること。

## 2. 成績証明書に関する注意

- (1) 成績証明書は、必ず教養課程を含んだ4年間分を提出すること。
- (2) 大学院を修了している場合も学部の成績証明書を必ず提出すること。
- (3) 複数の大学を卒業（見込）又は大学院を修了（見込）の場合は、複数の成績証明書を提出してもよい。
- (4) 大学に編入学している場合は、編入学前の大学等の成績証明書も提出すること。
- (5) 原本は各自保管すること。

## 3. 指導教員希望調査書に関する注意

- (1) 「学生受入教員名簿（修士課程）」（後掲）を参照の上作成すること。
- (2) 「指導教員希望調査書」に記入する教員は、必ず志望するコースの学生受入教員名簿に記載された教員から選ぶこと。
- (3) なお、指導教員は本調査書の内容を尊重の上、入学後に最終的に決定される。

## 4. 推薦書に関する注意

- (1) 出願者の専門領域に関わる研究面あるいは、実務面での経験及び能力に関する評価を記入したもの。
- (2) 評価者は、官公庁、企業及び団体等の所属機関の上司、卒業論文他学位論文の指導教員、

その他本人の経験及び能力を熟知している者等とする。

(3) 評価者は、推薦書記入後、指定のウェブサイトへアップロードすること。

#### 5. 日本語学力証明書に関する注意

(1) 外国人（日本の大学を卒業した者及び卒業見込みの者を除く）は、必ず提出すること。

(2) 日本語学力証明書の様式は、原則として本案内添付の様式を使用すること。これと別な様式とする場合は、「話す力」「聞く力」「書く力」及び「読む力」の評価並びにその評価方法等が記載された内容の証明書とすること。

#### 6. 各種証明書及び提出書類等に関する注意

(1) 外国語試験の成績証明書の取扱いについては、本入学試験案内の「外国語（英語）試験について」を参照すること。

(2) 提出する証明書、論文等は、日本語又は英語によることを原則とするが、やむを得ない事情により、他の言語の証明書を提出する場合は、和訳又は英訳した文書を添付すること。

#### 7. 各種提出書類等に関する注意

(1) 東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻修士課程学生募集要項（冬季募集）「7. 提出書類等」に基づき、指定のウェブサイトより入力及びアップロードすること（入力及びアップロード方法の詳細はウェブサイトに掲載する）。

(2) 「受験番号」欄以外は、それぞれの書類の注意書き等に従い、該当する箇所すべてを記入すること。

(3) 複数の書類に共通して記入する事項については、記入後、相違がないか必ず確認すること。

(4) 「自己推薦書」について、情報学及びその関連する分野における実績がある場合は、掲載されている URL 等を記入すること。

(5) 提出書類（各種証明書等）に記載されている氏名と現在の氏名が異なる場合は、改姓名したことが確認できる証明書を添付すること。

## 先端表現情報学コース案内

本学府修士課程[先端表現情報学コース]は、21世紀の社会・産業・個人の情報環境の基盤となる先端的な理工系情報学の知を深め、かつ様々な形での表現を指向するとともに、他分野と協調して学際的に情報学のフロンティアを切り拓いていくための幅広い学識を身につけ、創造的なデザイン能力を有する研究者及び表現者を養成します。

### 1. 募集人員

募集人員
28名(夏季、冬季の入試の合計人数である。うち特別選考枠を3分の1程度までとする) (注1) 本コースの「特別選考枠」では、メディア技術に関わるデザイン・芸術表現分野における作品制作・発表等の活動実績や専門性を重視して評価し、外国語試験成績証明書等も含めて選考する。 (注2) 試験の結果によっては、入学許可者数が募集人員に達しない場合もある。

### 2. 一般選考

#### (1) 一次選考

判定は、外国語試験の成績証明書及び書類選考により行われる。

試 験	内 容
提出書類 (外国語(英語))	「外国語(英語)試験について」(後掲)参照
筆記試験 (専門科目)	数学分野の共通問題1問に解答するとともに、選択問題1問に解答する。選択問題は、情報に関わる以下の分野から複数の論述問題が出題される。共通問題と選択問題ともに日本語・英語のいずれかで解答すること。英文が併記されている問題に関しては、日本語が正である。  共通問題 ・ 線形代数、微分積分学、微分方程式 選択問題 ・ 電子情報学/機械情報学/都市工学/社会基盤学などに関する分野の基礎的学力と知識 ・ 人間・環境/歴史・文化/メディア・コミュニケーションなどに関する分野の基礎的学力と知識

#### (2) 二次選考

一次選考合格者を対象に、オンライン会議システムにより遠隔で口述試験を行う。口述試験にはネットワークに接続し、カメラで受験者を撮影可能なコンピュータ(ノートパソコン等)が必要である。方法の詳細についてはウェブサイトへ掲載する。また、口述

試験で、入試案内の筆記試験（専門科目）にて示されている内容について試問を行う場合がある。

試 験	内 容
口述試験	修士課程における研究計画およびこれまでの研究実績について、画面共有によるプレゼンテーションで評価する。基礎および専門学力について試問を行う場合もある。本人の説明時間は 10 分以内とする。

### 3. 特別選考枠

本コースの特別選考枠は、メディア技術に関わるデザイン・芸術表現分野における作品制作・発表等の顕著な活動実績や高い専門性を有する者の特別選考枠とする。

#### (1) 条件

メディア技術に関わるデザイン・芸術表現分野における作品制作・発表等の顕著な活動実績や高い専門性を有する者。主に下記のような領域を想定しているが、これに限るものではない。

- ・メディアアート
- ・メディアデザイン
- ・プロダクトデザイン
- ・情報デザイン
- ・エンタテインメントコンテンツ
- ・都市・防災デザイン
- ・教育コンテンツ

#### (2) 出願時提出書類

特別選考枠での受験を希望するものは、一般選抜の提出書類に加え、ポートフォリオとして、以下を満たす書類を提出すること。ポートフォリオは、PDF として指定のサイトよりアップロードするものとする（アップロード方法の詳細はウェブページに掲載する）。

- ・メディア技術に関わるデザイン・芸術表現分野におけるこれまでの顕著な活動を説明する資料（書式任意）。複数人での活動の場合、個人としての貢献を証明、または明確に説明することが望ましい。
- ・必要に応じて、賞状のコピー等の業績を証明する資料や、作品のコピーを PDF 内に添付しても良い。
- ・ポートフォリオ内に、サイズや形式の関係で PDF には収まらないファイル、映像、ウェブ等への URL（および必要に応じてパスワード）を含めても良いが、これらはあくまで参考とし、PDF 内に記載された内容をもとに評価を行うものとする。URL の先のサイトやファイルは 2025 年 2 月末までは閲覧可能な状態にしておくこと。

#### (3) 一次選考

判定は、外国語試験の成績証明書及び書類選考により行われる。

試 験	内 容
提出書類 (外国語(英語))	「外国語(英語)試験について」(後掲)参照
筆記試験 (専門科目)	<p>選択問題 2 問に解答する。選択問題は、情報に関わる以下の分野から複数の論述問題が出題される。日本語・英語のいずれかで解答すること。英文が併記されている問題に関しては、日本語が正である。特別選考枠は数学分野の共通問題は解答の必要はない。</p> <p>共通問題 ・ 解答の必要なし</p> <p>選択問題 ・ 電子情報学/機械情報学/都市工学/社会基盤学などに関する分野の基礎的学力と知識 ・ 人間・環境/歴史・文化/メディア・コミュニケーションなどに関する分野の基礎的学力と知識</p>

#### (4) 二次選考

一次選考合格者を対象に、オンライン会議システムにより遠隔で口述試験を行う。口述試験にはネットワークに接続し、カメラで受験者を撮影可能なコンピュータ(ノートパソコン等)が必要である。方法の詳細についてはウェブサイトへ掲載する。また、口述試験で、入試案内の筆記試験(専門科目)にて示されている内容について試問を行う場合がある。

試 験	内 容
口述試験	修士課程における研究計画およびこれまでの研究実績、ならびにポートフォリオについて、画面共有によるプレゼンテーションで評価する。基礎および専門学力について試問を行う場合もある。本人の説明時間は10分以内とする。

## 外国語（英語）試験について

一次選考における外国語（英語）の試験は下記の方法による。

本学府が指定する TOEFL-ITP は実施しない。

入学願書の所定欄の希望する受験方法に一つだけチェックすること。

なお、外国語（英語）の試験について、下記で指定する受験方法以外は認めないので注意すること。

### A. 次のア、イ、ウ いずれか1つを提出する。

ア. TOEFL-iBT の公式スコアシート

※TOEFL iBT Home Edition も可

イ. TOEIC の公式認定証

ウ. IELTS の公式成績証明書

※Computer Delivered IELTS（アカデミック・モジュール）も可

### 【ア. TOEFL (<https://www.cieej.or.jp/toefl/>) について】

○試験の種類：TOEFL-iBT とする。

※TOEFL iBT Home Edition も可

○有効期限：本学府入学試験の2年前(2023年)の1月1日以降、別紙「学生募集要項(2. 出願方法・出願期間)」記載の出願受付期間終了までに受験したものに限定する。

○提出書類：「**Institutional Score Report**」または「**Official Score Report**」

Institutional Score Report または Official Score Report は、ETS から東京大学大学院学際情報学府宛 に直送されるものである。

受験生は、ETS に対して Institutional Score Report または Official Score Report の送付を請求する必要がある。

○提出方法：「Institutional Score Report」または「Official Score Report」の到着期限は、令和7(2025)年1月9日(木)を原則とする。ETS に対して東京大学大学院学際情報学府宛「Institution Code コード：0440 (U of Tokyo, Grad Sch Inter Info)」 「Department コード：“99”(Any Department Not Listed)」へ送付するよう必ず請求する。

**出願時に Appointment Number を記入すること。**

注) 請求方法などは、TOEFL のウェブサイトで十分確認すること。

<https://www.ets.org/jp/toefl/test-takers/ibt/scores/>

- 注意事項：※ 各スコアの到着には約6週間程度かかることがあるので、日程に余裕を持って受験又は請求すること。詳しくはTOEFL ウェブサイトで確認すること。
- ※ 不正が判明した場合は、受験後であっても、受験資格を取り消す。

【イ. TOEIC (<https://www.iibc-global.org/toeic.html>) について】

- 試験の種類：TOEIC L&R とする。
  - ※ 「TOEIC S&W、TOEIC Speaking、TOEIC Writing、またはTOEIC SW Test」、  
「TOEIC Bridge Test または TOEIC Bridge」のスコアは受け付けない。
- 有効期限：本学府入学試験の2年前(2023年)の1月1日以降、出願受付期間終了までに受験したものに限定する。
- 提出書類：「Official Score Certificate」(公式認定証)をスキャンして提出すること。  
団体特別受験制度(IP: Institutional Program)のScore Report(個人成績表)、スコアシートのコピーなどは受け付けない。
- 提出方法：願書提出時に他の書類と共に本学府に提出することを原則とする。  
ただし、上記有効期限内に受験したもので、願書提出期間に間に合わない場合は、事前に連絡の上、令和7(2025)年1月9日(木)正午必着で本学府にメールで提出すること。
- 注意事項：※ 不正が判明した場合は、受験後であっても、受験資格を取り消す。

【ウ. IELTS (<https://www.eiken.or.jp/ielts/>) について】

- 試験の種類：アカデミック・モジュールとする。
  - ※Computer Delivered IELTS (アカデミック・モジュール) も可。
  - ※ジェネラル・トレーニング・モジュールの成績は受け付けない。
- 有効期限：本学府入学試験の2年前(2023年)の1月1日以降、出願受付期間終了までに受験したものに限定する。
- 提出書類：IELTS 公式成績証明書 (Test Report Form) をスキャンして提出すること。
- 提出方法：IELTS 公式成績証明書 (Test Report Form) は、願書提出時に他の書類と共に本学府に提出することを原則とする。ただし、上記有効期限内に受験したもので、願書提出期間に間に合わない場合は、事前に連絡の上、令和7(2025)年1月9日(木)正午必着で本学府にメールで提出すること。



また、IELTS を実施している公益財団法人日本英語検定協会の管轄オフィスから大学に成績証明書 (Test Report Form) を送付するサービスを使って提出することも可とする。その場合、令和7((2025)年1月9日(木)本学府必着とする。管轄オフィスに対して東京大学大学院学際情報学府宛へ送付するよう必ず請求する。あて先は、東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻修士課程学生募集要項(冬季募集)表紙を参照すること。

注) 請求方法などは、IELTS のウェブサイトで十分確認すること。

<https://www.eiken.or.jp/ielts/result/>

<https://www.eiken.or.jp/ielts/apply/>

○注意事項：※ 不正が判明した場合は、受験後であっても、受験資格を取り消す。

先端表現情報学コース  
学生受入教員名簿（修士課程）

学際情報学府修士課程指導教員のうち、令和 7(2025)年度において学生受入を行う教員は以下のとおりである。

「指導教員希望調査書」に記入する教員名は、必ず以下に記載された教員から選ぶこと。

第1希望の教員とは、入学願書受付開始日の前日までにコンタクトをとること。

教員名	役職	本コースにおける担当専門分野（キーワード）
雨宮 智浩	教授	メタバース、バーチャルリアリティ、身体錯覚、五感情報処理
伊東 乾	教授	非線形音楽音声解析、動的音場解析、表現倫理
稲見 昌彦	教授	人間拡張工学、バーチャルリアリティ、ウェアラブル技術、超人スポーツ、エンタテインメント工学
今井 健	准教授	医療 AI、知識表現とオントロジー、自然言語処理、社会デザイン
大石 岳史	准教授	コンピュータビジョン、コンピュータグラフィックス、複合現実感、3次元モデリング、デジタルアーカイブ
大口 敬	教授	道路・街路計画設計、交通挙動解析、交通運用影響評価、先進モビリティ研究開発
大島 まり	教授	生体シミュレーション、医用画像処理とインターフェース開発、医用データと AI、STEAM 教育のためのコンテンツ開発、科学技術コミュニケーション
大原 美保	教授	災害レジリエンス、災害リスク評価、災害対応、防災分野の人材育成
岡田 慧	教授	知能ロボット、ヒューマノイド、実世界インタラクション情報学、共棲ロボットのシステムデザイン
小川 剛史	准教授	拡張現実感、仮想現実感、ヒューマンコンピュータインタラクション
筧 康明	教授	インタラクション、メディアアート、実世界拡張、創造・表現活動支援、デジタルファブリケーション、インクルーシブデザイン
上條 俊介	准教授	人物セキュリティ・マーケティングのための画像認識、高度交通システム、自動運転、アドホック通信やポジショニングによる行動支援
川越 至桜	准教授	教育用インターフェース、STEAM 教育コンテンツ、教育データ分析、ワークショップデザイン、科学技術コミュニケーション

葛岡 英明	教授	CSCW、グループウェア、多言語コミュニケーション、ソーシャルロボット、バーチャルリアリティ、拡張現実感、理科教育
國吉 康夫	教授	知能ロボット、コツと目の付け所、複雑適応系、認知発達、脳情報処理、ソーシャル ICT
佐藤 洋一	教授	コンピュータビジョン、画像の認識・理解
鶴岡 弘	准教授	地震情報学、地震情報システム、リアルタイム地震学、緊急地震速報、波動場モニタリング
戸矢 理衣奈	准教授	美意識・身体観の変容に注目した社会史・文化史、ファッション、感性産業の経営史、異分野および社会連携の推進
苗村 健	教授	メディア+コンテンツ、アート&エンタテインメント、複合現実感インタフェース、多人数調和型情報環境、超臨場感コミュニケーション
中川 茂樹	准教授	地震火山観測システム開発、観測波形データ処理、観測データ流通、地震検出手法、地殻構造イメージング
中野 公彦	教授	自動車、モビリティ、ドライビングシミュレータ、ITS
鳴海 拓志	准教授	クロスモーダルインタフェース、拡張現実感、バーチャルリアリティ、人間拡張、認知科学
沼田 宗純	准教授	防災プロセス工学、防災行動学、ドローンによる被害画像解析、防災教育
PENNINGTON MILES	教授	デザイン先導イノベーション
目黒 公郎	教授	災害リスクマネジメント、ユニバーサル地震災害環境シミュレータ、防災制度設計、国際防災戦略、国際災害情報ネットワーク
矢谷 浩司	准教授	Human-AI Interaction、ウェルビーイング支援
山肩 洋子	教授	食の AI、フードログアプリケーション、食事画像認識、レシピの自然言語解析
山川 雄司	准教授	高速ロボット、高速視覚制御、ロボットマニピュレーション、人間機械協調
渡邊 英徳	教授	デジタルアーカイブ、情報デザイン、コミュニティデザイン、データジャーナリズム、ビジュアライゼーション

(五十音順)

